

自由南アフリカの声

Voice of Free South Africa

2001年1月
No.25

発行 / アジア・アフリカと共に歩む会

Published by Together with Africa and Asia Association (TAAA)

2000年12月の報告と予定

- 9月 中古移動図書館車を引取る
- 9月～10月 南アELETとMEIへ資金援助
- 10月 埼玉県立大学学園祭に展示
- 11月 南アMEIへ本を4536冊送付
- 12月 クワズールナタール州へ車を送付
- 2001年1月 ELETへ本を73箱送付予定

目次

21世紀に向けて—南アフリカ.....	2
移動魚類博物館.....	3
大学学園祭に参加して.....	4
河合塾から参加の挨拶.....	5
会員からの便り.....	6
活動報告.....	7
寄付をくださった方々.....	8



ある日の梱包作業風景（埼玉県与野市） 2000.11

平林薫さんの南アだより

21世紀に向けて—南アフリカ

アパルトヘイト制度が廃止されて10年、民主的な国家として再スタートして6年、南アフリカは大きく変わりました。黒人のリーダーたち、ブラックエンパワーメントと呼ばれるビジネスの頭脳集団、テレビや音楽界で活躍するタレントたち、チャンスを手につかんだ人々は、華やかな表舞台上で最高の生活を享受しています。

そんな人々の陰で、その日の暮らして精一杯の“何も変わらない人々”が多くいることも事実です。民主的であるということは、すなわち競争社会なのだから“差”ができるのは当然なのでしょう。しかし今のこの状況は“持てる者”の中に一部の黒人層が一気に入ってきただけで、これまでのこの国の社会構造と全く変わっていないのかもしれませんが、一方で、自分の生活すらぎりぎりのところで、骨身を削って働くNGOのスタッフもたくさんいます。そんな、人種を超えた“HUMANITY（人間性）”をもった人々に会うたびに“この国はきっともっとよくなる”と思えるのです。

最近大変ショッキングな映像がSABCの番組で放映されました。これは約2年前の映像なのですが、警察内部の告発でSABCの手に渡ったようです。以前からデモ隊などに犬を突入させて阻止するというやり方が行われていましたが、この映像は警察のDOG UNITと呼ばれるチームが、摘発された隣国からの不法滞在者を使って実際に噛み付かせる訓練を行っているのです。しかも警官たちはまるで楽しんでいかにように残忍な笑みを浮かべ、カファー（黒人）などという言葉を投げかけているのです。確かにこのDOG UNITは麻薬や爆弾などの捜索などで活躍しており、映像内の警官の一人はその仕事ぶりを表彰されてもいます。警官としての勤めは立派に果たし、人々から尊敬され頼られている人間に何故このようなことができるのでしょうか。

今回の場合は6人の白人の警官が黒人に対して行ったため、特に人種差別問題として捉えられています。残念ながら白人たちの意識の中にはやはり未だに黒人に対する差別、偏見があるように思われます。しかしこの映像を見てテレビ局や新聞に意見を寄せた人々は白人・黒人を問わず彼らの行為を“人間として許せない”

というものでした。おそらくあの警官たちも不法滞在者、つまり弱い立場の人間に対してだから平気であんなことができたのです。ネルソン・マンデラの前に出れば最敬礼をしましょう。悲しいことにこれは人間の性なのかもしれませんが、常に他人、他人種、他国との優劣をつけたがります。自分たちより“下”の人間がいることで安心し、優越感を持つのです。みんなただの同じ人間なのだからどこに優劣があるのでしょうか。お金なんて本来はただの紙切れだし、容姿だって実に主観的なものなのだから、それを持つ人々がそうでない人々より立派であるなんてとてもいえないはずなのに。

最近、サンの人々の生活を描いた映画“GREAT DANCE”を見ました。現在、世界中のネイティブ（本来その土地にいた人々）が、彼らの生活を脅かされているのと同様に、サンの人々もその生活の場を失いつつあります。狩猟・採集が生活の基本である彼らは、広大な自然のままの土地を必要とします。しかし彼らは決してそれを“所有”していたわけではありません。自然は人間を含む動物たちを生かしてくれる偉大な存在であり、また他の動物たちに対しても尊敬の気持ちを持っていました。今、土地には線が引かれ、少しでも多くの土地を獲得しようと人々は戦います。お金のある人だけが土地を所有し、フェンスを張って自分のものだと言います。そして、保護の名のもとで動物たちは狭い敷地内に押し込められていきます。このような状況の下ではサンの人々はとても生きていけません。きっと彼らは叫びたいと思います。“どうしたのだろう。人間は狂い始めてしまった”と。サンの人々がいなくなるということは、本当の“人間”がいなくなるということに思えてなりません。

猛スピードで進んでいく歴史がもう後戻りできないのなら、せめて“人間性”のかけらだけでも失いたくないと思います。どんな状況におかれていても同じ人間なのだから、助け合っていきたい、と。

平林さんは元ANC東京事務局スタッフ。現在は南ア在住。旅行コーディネーター。

●グラハムスタウンからの報告

JLB スミス専門学校の移動魚類博物館

TAAA の皆様、バスを寄贈して下さいありがとうございました。

1999年1月にバスが到来して以来、運営に向けて着実にことが進んでいます。バスはまだ実際には使われていませんが、私たちは、バスの運営費、書庫費、塗装費をまかなう助成金を得るために、グラハムスタウンにある企業にアプローチをかけています。また、支援対象となる恵まれない学校の子供たちにバスの存在を知ってもらおうと努力しています。

サソール科学フェスティバルの期間、小学生を対象としたコンテストを行いました。バスの名前と外装のデザインを決めるコンテストです。先生や生徒たちに移動図書博物館のサービスを知ってもらうために、コンテストの用紙をグラハムスタウンにある全ての小学校に配りました。

教育学部ではバスに載せる教材を集めています。子供たちには地元の魚を通して自然環境やその保護の大切さ教えていきますが、それに必要な教材は全て揃えたいと思っています。バスの巡回ルートにはグラハムスタウンの恵まれない学校地域が含まれます。今年の第2 四半期までには45校を廻る予定です。将来的には巡回ルートを東ケープ州全域に広げていきたいと思っています。今年1999年の4月にはスタートする予定です。また近々、進捗状況をお伝えいたします。 (訳/久我祐子)

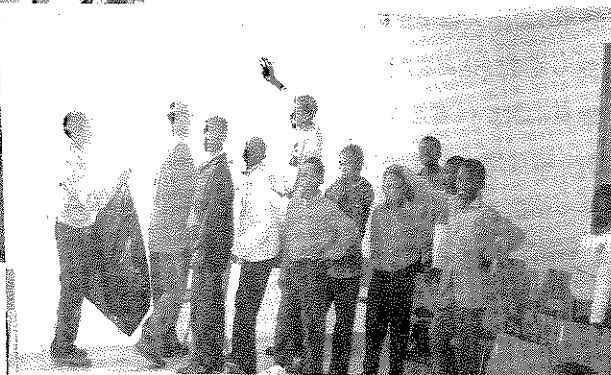


上/魚類博物館の出張展示に使われる
中古移動図書館車

左/魚類博物館員の話に集まる生徒たち



右/博物館員の行うスライド映写の準備をする生徒たち



大学学園祭に参加して

浅見克則

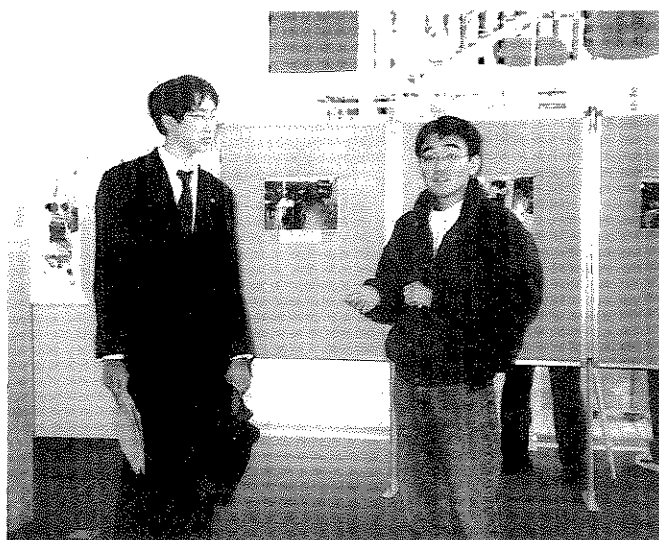
10月28、29日の両日、埼玉県立大学の学園祭に出展者として参加した。TAAAのメンバーの古我さんが勤める大学だ。両日も曇り、雨と天候には恵まれなかった。東武伊勢崎線のせんげん台駅から西にまっすぐ延びる新興住宅地が終わりかける畑の中に広々と敷地をとった真新しい校舎が見えてくる。前身が県立埼玉衛生短大とあって看護学が主体の新しい大学だ。初日、野田代表と私は、たまたま保管中の図書館車も展示しようと苦戦の末にエンジンをかけて持ってきた。我々に振り当てられたスペースは未来建築を思わせる研究棟のロビー。お借りしたこれまた新品の掲示板に手際よくセットしているうちにメンバーで主婦の安部さん登場。開場の10時からポツポツと来場者が訪れる。屋外のメインストリートからは威勢のいい呼び込みの声とともにヤキソバの匂いが鼻腔をくすぐる。地味な展示の上、屋内なので目立たない。作戦を変え、古我さんが広い顔を利して表で呼び込みを敢行。やや強引なキャッチが功を奏して午後は参観者が漸増。古我さんが呼び込み、野田さんと私が張り付いて説明をし、出口で安部さんが販売品を柔らかに勧めるというリズムができあがった。参観者の中にはスクオッターキャンプの現状に驚き、我々の会の目的としている教育水準のボトムアップがいかに大事かを認識し、幾許かの寄付を申し出てくれる方々も現れ始めた。2日目、高校教師の下谷さんがボランティアに関心のある女生徒を伴って参加し、学生たちに南アの写真を前にアパルトヘイトの歴史や南アの現状を講義してくれた。またポツワナ人留学生のルンギレが助っ人で現れて古我さんと並んで呼び込みを精力的にこなし、雨天にも拘わらず参観者動員に大いに寄与した。非常に興味のある少数の人たちとある程度関心を持っている多くの人々へ説得力のあるメッセージが送れたのではないかと、軽い疲労と充足感に包まれて帰りのハンドルを握った。



▲クワズルーナター州に送る直前の車と浅見



▲安部（左）と野田



▲南アの写真を前に説明する下谷（右）

一緒に、こつこつと

河合塾 牧野 剛

(1) この会を知った理由

自分でもどうしてか忘れてしまったんだけど、ある日会報がとどいて、「あ、いいことしてるナ」と思って、たぶん、手持ちの、ほんの小額のお金を送ったのではないかと、思います（後で、野田さんにうかがいますと、息子さんが、何かで僕の名前を知って、『会報を送ったら』と言われたのだそうです）。それにしても、時々、塾生にも、野田さんの紹介を、僕流にしてみました。そして、機会があれば、僕たちも、何か、野田さんたちに協力が出来れば、と考えて来ました。

(2) カンボジアに学校を作る

カンボジアの内線（ポルポト派対政府軍の）が激しかった時、日本政府は、PKO（平和維持活動）法案を国会で通し、自衛隊を、現地に「派兵」する決定をしました。僕たちは、その法案に対する反対を「堂々と一歩を歩く教師の会」として表現しましたが、その理由以上に、自衛隊の行くカンボジアに興味を持ちました。

その後、カンボジアに行くチャンスがやって来ました。いろいろな人が協力し、カンボジアのベトナム国境の州、プレーベンに学校を作ることに参加しました。そして、カンボジアの自然の豊かさ、内線による混乱や人間の悲しさやおろかさを知ることとなりました。

(3) 個人の努力、集団の努力

これ以外にも、僕の住む名古屋にも、チェルノブイリに医療品を送る運動、ニカラグアに医療品を送る運動、ベトナムにミシンを送る運動、阪神淡路震災ボランティア、オイルバスターズ（ロシアタンカーによる北陸海岸の石油汚染除去ボランティア）等々、数々の運動がありますが、それは個人の好意のみによって進められている貴重なものです。しかし、社会のもう一つの単位たる集団、会社、地方自治体の努力が、今一つ形をなしていないと考えるようになりました。

(4) 河合塾全体で、本を送ろう

個人こそ、こうした運動の全てであろうことも、十分に理解しているつもりです。しかし、個人には、一つの壁があることも事実です。初期の運動に連動し、その運動に答えるものとして、会社や地方自治体が答えるのも面白いと考えました。2000年の記念もこめ、特に若い人たちが二十一世紀に考えて行くべき（二十世紀が残した）問題として、象徴として、「河合塾の机（『生徒の駿台、講師の代ゼミ、机の河合塾』という言葉があるので）」を、「カンボジアに送ろう」、「南アフリカに英語の教科書を送ろう」という提案を塾内で行ったのは、今年の四月です。もっとも、多くの教職、塾生には、何年も前から話していたのですが…。そして、決定しました。

(5) この計画はどう進むのか

名古屋の豪雨と洪水によって、塾生の家も被害をうけました。この時、河合の中での「カンボジア・南ア」問題討論で、「なぜカンボジアか、なぜ南アか、国内はどうする」という討論を何回もやってきていましたので、スムーズに一定の対応が可能になりました。（テキスト、辞書を被災塾生に、クラス担当が個別にとどけるという手段で、各戸訪問しました）。

これは、まだ自分たちの企業にこだわったものでありません。しかし、すべては、一歩一歩しかないとおもわれます。南アへの教科書を送る運動への、企業としての参加も、今では、まだまだどのようになるか手探りでしかありません。しかし、皆様のご協力で足手まといにならぬよう、こつこつと頑張りながら、自分たちとしての自立的な運動が各地に拡大できるように、努力してまいりたいと思います。

まずは参加することの、挨拶でした。よろしく。



左から、河合塾講師牧野剛さん、米山本部長、制作企画部宮崎敦子さん

会員からの便り

◆会報ありがたく拝読しております。多分新聞記事を見て貴会を知ったと思いますが、随分昔の出来事のような気がします。会報を読む度に、会長をはじめ応援されているメンバーの会運営に対する熱い息吹きが紙面を通じて伝わってきております。業務内容も年々拡大しておられる様子、大変うれしく思っております。日本では「活字離れ」「本離れ」が進行している・・・という新聞記事をよく見かけますが、会報に見る現地の子どもの本に対する真剣な眼差しに接して南アの将来が楽しみです。貴会が今後益々発展して、将来南アの地で、日本の関心のある有志のために小さくても日本語教室を設立する事ができれば・・・というような夢を抱いております。

貴会のような活動は「あせらず」「地道に」「現地のニーズを先取りして継続」して行く事が大切であると思っております。小生も皆様と共に「会の発展の為に少しでもお役に立てれば」と思っております。

前田佳明（那覇市）

**前田さんはTAAAが活動を始めた8年前から、全国紙を見て、遠い沖縄からたびたび寄付金を送って応援して下さいます。*

◆ANC（今の南ア与党）の東京事務所でボランティアをしていたころ、代表のマッティーラ氏は毎日のようにしていました。「アパートヘイトは法的には終わったよ。でも今まで虐げられていた黒人たちが本当の意味で力を付けない限り、本当の意味でのアパートヘイトは終わらないんだ。これからは教育が大切だ。教育の支援を続けてくれ」TAAAはこの力を付ける手伝いを今までしてきましたし、これからもしていきます。本を通して子供たちが基礎的な学力や語学力だけでなく、想像力や遊び心が育ってくれればと願っています。本の中でたくさん遊んで、世界を広げて行って欲しい。南アにいくと子供たちがとても大切にされているのが分かります。小さな宝物たちを磨いていくお手伝いにみなさんも参加してみませんか？

久我祐子

◆TAAAには多種多様な人が集まってきます。それぞれが楽しんで、自分ができる範囲のことをやる。私は、学校とも仕事とも違う、TAAAの活動を楽しんでいます。いろんな人に出会うこと、人間、図書館、地方自治体、その他いろいろなことを考えるきっかけをもらえること、自分が何かしているという実感、これがTAAAの活動の面白いところだと思います。今年も直しく願います。

工藤睦子

◆現在主に会報の編集をさせていただいています。読んでくださった皆さんからの感想や暖かい言葉が、一人ワープロに向かう時の励みになっています。

TAAAとは半分は仕事を通じて出会いました。というのも、私が司書として働いている図書館の移動図書館が廃車になった際に、この会を通じて南アに送られたことを後から知り、報告会に足を運んだことがきっかけになりました。仕事以外で自分が何かの役に立てる場所があるのかしら、などと考えていた矢先のことだったので、忙しい時間をやりくりして活動しているメンバーの皆さんの姿が眩しく写りました。実際参加するようになってみて、皆楽しみながら自主的に好きなことをやっているんだ、という感じがTAAAの良いところだと思います。いろんな年代の様々な職種の、普段なら全然知り合うチャンスのない環境の仲間たちと出会えたり、去年は実際に南アに渡り、皆さんから送られた本や移動図書館が役立ち喜ばれている様を目にすることもできました。これは私にとっても大きな喜びで、何かを「してあげる」ことがボランティアなのではないという想いを強くしています。土日の仕事があり、梱包作業で自慢の豪腕(?)を披露する機会が最近少ないのが残念ですが、地道にコツコツと続けていきたいと思っています。会報を読んでいる皆さんにも作業にお気軽に参加して頂けたらと思います。

山田 玲子

◆ 主な活動(2000年8月16日～12月17日)

- 8/23 会報 24 号編集会議 山田玲子 野田千香子
 8/25 会報 24 号の原稿整理 野田
 9/2 午前：浅見克則 古我貞夫、上郷市より車引き取り浦和へ移送。午後：一時帰国の南アユネスコ職員菊川穰さん(現ユニセフ職員)を囲んで野田宅にて会議 菊川 常見佳代 野田 浅見 古我 山田 小松浩 下谷房道 ブルース・ベック
 9/6 アメリカンスクールインジャパンより 40 箱引取る 浅見
 9/10～20 会報編集 山田
 9/20 臨時運営委員会 下谷 浅見 山田 野田
 9/24～26 会報発送 井出利栄
 9/28 ELETH 100 万円送金
 9/30 JVC津山直子さん帰国報告会 久我祐子 千葉愁子 野田
 10/4 MEI へ 100 万円送金
 10/7 セントマリーズインターナショナルスクールから本引取り 浅見 浅見綾子
 10/22 梱包作業 安部弥生 浅見 下谷 山田 野田 古我 ヴィヤニ ルンギレ
 10/28 埼玉県立大学学園祭展示 古我 浅見 安部 野田
 10/29 同上 古我 浅見 野田 下谷 ルンギレ 田中敦子・康浩
 10/30 道路公団誌からの取材受ける 野田
 11/1 清泉インターナショナルスクールより本 60 箱寄贈受ける
 11/8 南ア MEI へ本 100 箱出荷
 11/13 クワズルーナタール送付予定の車について南ア通産省より免税許可が出る
 11/15 アメリカンスクールインジャパンより 60 箱寄贈受ける
 11/17 河合塾の牧野剛講師、部長長米山氏、企画制作宮崎敦子氏が野田宅で支援協力の会議
 11/19 梱包作業 野田、浅見、安部、古我、北爪、ルンギレ、金子玲子、及川あさ美、近野純一
 12/10 クワズルーナタール送付予定の車エンジン取替え 浅見
 12/16 シャロームキリスト教会へ寄付お礼の挨拶 安部 野田
 12/17 毎日新聞より取材受ける 野田

南アフリカへの本送付の活動報告

1998年		送付先
4月	2713冊	ELET
5月	6486冊	MEI
6月	5094冊	マシフンディス
7月	2624冊	ELET
8月	3016冊	MEI
9月	2698冊	ハウテン州教育省
10月	3736冊	ELET
10月	255冊	インナンバコミュニティセンター
2月	7588冊	ハウテン州教育省
1999年		
5月	6151冊	マシフンディス
7月	2194冊	ELET
8月	2800冊	MEI
8月	1187冊	ELET
8月	140冊	ミランズ女性グループ
12月	3779冊	ELET
2000年		
5月	4320冊	西ケープ州
11月	4536冊	MEI

1992年から2000年12月まで8年間の合計は、17万冊(173066冊)で2トントラック50台分になります。本は南アフリカの黒人の住んでいる地域の学校や地域のコミュニティセンターに配布されたり、あるいは移動図書館で利用されたりしています。

TAAA 近況

☆12月26日にクワズルーナタール州へ初めての車が出港しました。菊川さんが南アで受け取り先をリサーチして下さってから1年半という年月が経ちました。一番長かったのは南ア通産省からの免税許可待ちでした。待ちくたびれたであろう車も今は南ア目指して海上を進んでいます。

☆神戸在住の永田と美さんがガラス製のとても美しく柔らかな感じのする文鎮をたくさん作って送って下さいました。永田さんは河原の丸い石を使って動物(猫など)の作品を創られていることで注目されている方です。文鎮は国内で販売して資金にさせていただいています。

☆河合塾の講師の牧野剛さんから、塾生や高校生に英語の本や教科書の収集への協力を呼びかけたいとお申し出をいただき、河合塾のセンター長や事務の方と3人で、名古屋から訪ねてきて下さいました。今年の活動の新たな展開が期待され、楽しみです。

☆部落解放同盟の岡山支部がBLL (Buraku Liberation League) という組織を作って南アその他で活動を行っています。今年は南アの BLL プレトリア事務局長の藤田真紀さんと連絡をとりながら、BLL の活動している現地へも英語の本を送っていきたいと考えています。(野田千香子)